

❀ 毎月23日は「福岡市 子どもと本の日」です ❀

～ 子どもの読書活動を推進しましょう ～

□ 日本の文学作品の賞について

今年のノーベル文学賞に、カズオ・イシグロ氏が選ばれ、大変話題になりました。2015年、芥川賞に又吉直樹氏の「火花」が選ばれた時も話題になりました。このように話題になった本や受賞した本を学校図書館に展示したり、紹介したりすることで、子どもたちに本への興味や関心を高めることにもつながると思います。

そこで、今月は、日本にはどんな文学に関する賞があるのか紹介します。

比較的によく知られているのが、芥川賞（芥川龍之介賞）、直木賞（直木三十五賞）ではないでしょうか。この二つの賞は、日本文学振興会が主催し、昭和10年に制定されました。芥川賞は、新聞、雑誌に発表された純文学短編作品で、主に無名の新進作家が対象です。直木賞は、新聞、雑誌、単行本として発表された短編、長編の大衆作品で、主に無名の新進・中堅作家が対象となっています。

※今年上半期の芥川賞は、沼田真佑「影裏」、直木賞は、佐藤正午「月の満ち欠け」です。



他にもこのような賞があります。

○ 文学者の業績顕彰としての文学賞

賞の名前	賞の説明	過去の受賞作品（一部）
川端康成文学賞	川端康成の残された業績を長く後世に伝えるために新聞、雑誌などに発表された短編小説が対象として受賞する。昭和47年に制定。	「生鮮てるてる坊主」 山田詠美 「レールの向こう」 大城立裕
野間文芸賞	小説、ノンフィクションなど形式を問わず、その年度の優秀な作品が受賞する。昭和16年に制定、戦後一時中断後、昭和28年に再開。	「土の記」 高村薫 「冥途あり」 長野まゆみ 「雪の練習生」 多和田葉子
柴田錬三郎賞	時代小説、現代小説を問わず、真に広汎な読者を魅了しうる作品が受賞する。昭和63年に制定。	「赤へ」 井上荒野 「かたづの！」 中島京子

この他、「谷崎潤一郎賞」「松本清張賞」「吉川英治文学賞」などいろいろあります。

○ ジャンル別の文学賞

日本SF大賞	9月1日から翌8月31日までの一年間に発表されたSF作品の中から、最も優れた作品が受賞する。昭和55年制定。	「WOMBS」 白井弓子 「皆勤の徒」 西島伝法
日本ファンタジーノベル大賞	未発表のファンタジー作品が、公募され受賞する。平成元年に制定、平成26年休止、29年再開。	「隣のずこずこ」 柿村将彦 「僕僕先生」 仁木英之

この他、「日本児童文学者協会賞」「本格ミステリ大賞」などいろいろあります。

Hello! 学校図書館

今年度も、福岡市内の小中学校、特別支援学校を訪問し、図書館の様子などを紹介していきます。学校の図書館の運営や環境づくりなどの参考になればと思います。

今月は、中学生が本を手に取りたくなるような取り組みをしている中学校を紹介します。

《老司中学校》

老司中学校は、14学級、456名の学校です。図書館前の廊下には、図書館の本を読みたくなるような工夫だけでなく、図書館と生徒との双方向の交流、図書館の情報センターとしての役割を持たせるなどの工夫をしています。

○ 図書館前の廊下の掲示の工夫



(図書館の前に取り付けられたラティス)

図書館前の廊下の窓にラティスを取り付け、そこに「新着本コーナー」などのコーナーを設け、生徒の読書意欲を高めようと働きかけをしています。



(新着本の紹介コーナー)

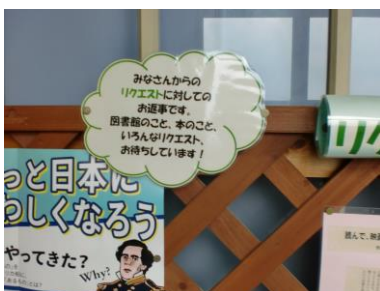


(「おすすめBOOKS」で本の紹介)



図書館前の掲示板では、月刊誌の最新号の情報を貼ったり、映画のチラシとその原作本の帯を貼ったりして、生徒に本への関心を持たせようとしています。

○ 図書館と生徒との双方向の交流



(リクエスト伝言板に貼られた図書委員からの記事)

「リクエスト伝言板」をつくり、生徒から本のリクエストを募集し、そのリクエストの返事を掲示しています。

○ 図書館の「情報センター」としての役割



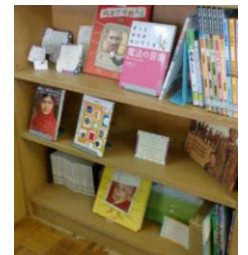
「少年写真ニュース」「図書館教育ニュース」を掲示し社会の動きを知らせたり、「BOOK TOPICS」を設け、本に関する情報を発信したりしています。

(「BOOK TOPICS」では、新聞に掲載された「上橋菜穂子」氏について掲示しています。)

○ 本を手に取りたくなる工夫



図書館入口のカウンターそばの丸テーブルには、開催間近の「合唱コンクール特集」と表示して、音楽に関する本を展示しています。



(図書館のカウンター付近) (丸テーブル上の本の展示)

(POPといっしょに、立てられた本)



(書架の中や書架の上に立てられた本)

(透明のプラスチックの本立てに並べられた文庫本)

書架の中や上に本を立て、本の表紙から本への興味を持つようにしています。

♪ 福岡アジア美術館 「1月の案内」 * * * * *

* アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ

9日(火), 14日(日), 23日(火), 28日(日)

・時 間: 11:30~12:00 13:00~13:30

・場 所: 7階「キッズコーナー」(申し込み不要)



♪ 福岡市総合図書館「1月の案内」 * * * * *

* 毎月のお話し会

6日(土), 7日(日), 13日(土), 14日(日), 20日(土)

21日(日), 27日(土), 28日(日)

・時 間: 土曜: 14:30~(幼児向け~小学生向け)

日曜: 14:30~(幼児向け), 15:15~(小学生向け)

・場 所: 「こども図書館 おはなしの家」



1月生まれの文学者たち



角野 栄子(かどの えいこ)本名(渡辺 栄子)と「魔女の宅急便」

1935年1月1日 東京生まれ

角野氏は、5歳で母をなくし、戦争や終戦を体験しました。学生時代からデザインの仕事にあこがれ、本の装丁を手がけるブックデザイナーになろうと思っていました。早稲田大学教育学部英語英文学科を卒業後は、出版社に勤め、1年ほどして結婚しました。1959年24歳の時にブラジルに移住し、2年間過ごしました。1970年35歳で、早大の恩師の勧めでブラジルでの生活を書いた作品、「ルイジニョ少年 ブラジルをたずねて」を出版し、作家デビューをしました。角野氏は、この作品を書き進めるにつれて書くことが楽しいことに気づき、以後多くの作品を書きました。

「魔女の宅急便」は、主人公である13歳のキキが、親元を離れ、知らない町で魔女として町の人に受け入れられ、一人立ちする姿を描いています。このキキのモデルは、当時12歳だった長女が書いた絵がもとになっています。また、宮崎駿監督によって1989年にアニメ映画化、2014年には、清水崇監督により実写映画化されました。

角野氏は、「魔女に宅急便」を書いたときは、魔女について特に詳しくありませんでしたが、魔女について問い合わせが多くあったため、魔女について調べ始め、ついに魔女についてのエッセイを執筆するまでになりました。

角野氏の作品は、「わたしのママはしずかさん」など、多数あります。



森見 登見彦(もりみ とみひこ)と「聖なる怠け者の冒険」

1979年1月6日 奈良県生駒市生まれ

森見氏は、京都大学農学部を卒業後、京都大学院農学研究科修士課程を修了しました。2003年、在学中に執筆した「太陽の塔」で第15回日本ファンタジーノベル大賞を受賞し、作家デビューしました。

「聖なる怠け者の冒険」は、朝日新聞の夕刊に連載された後、全面改稿されたものです。新聞連載を引き受けるときは、他の連載もあり、また、国立国会図書館で働いていたため躊躇していました。しかし、両親から「新聞に小説を連載することは、世間から認められたということだから」と言われ、連載を引き受けました。

「聖なる怠け者の冒険」の連載では、物語の完結をどうするかを最初から決めていたわけでもなく、また、連載のストックは3週間分でしたので、いろいろな話を続けながら、物語の展開をしていきました。森見氏は、連載の途中から、「とにかく無事に終わらせること」も目標になってしまい、連載が終わってみると、小説として一本筋が通っていないように感じました。森見氏は、本として出版するとき、連載中の登場人物を削ったり復活させたり、話をばらばらにしたりするなど、何度も何度も書き直しました。そして、森見氏自身が納得した作品となりました。

森見氏の作品は、「有頂天家族」「四畳半神話大系」など、多数あります。

□ 図書館員のひみつの本棚 《No.140》

福岡市総合図書館 読書相談員の重村さやかさんが、毎月素敵な本を紹介してくださる
楽しみなコーナーです。

今回の本は、1972年の発行から現在も読み続けられている絵本です。男の子にと
って、学校のトイレを使うことにまだまだ抵抗が多いようです。子どもたちにこの本を
読み聞かせることで、学校のトイレを使うことに抵抗が小さくなるのではと思います。
ぜひ、学校で担任の先生が、子どもたちに読み聞かせをしてほしい一冊です。

✽ 今月の本

『トイレのおかげ』

森枝 雄司／写真・文 はら さんぺい／絵 福音館書店 1972年 1,188円

♪ あとがき ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

今年も残すところ、10日あまりとなりました。今年も、学校では、読書活動にいろいろ取組まれ
たことと思います。

さて、12月2日(土)の「福岡市子ども読書フォーラム」では、中学生や高校生が、出し物や展示
を工夫していました。また、工作などの製作では、小さい子どもたちでも、楽しく制作できるように
やさしい言葉かけをしていました。さらに、気持ち良い挨拶をたくさんしてくれました。とても、う
れしい気持ちになりました。学校で「あいさつをする」という指導や声掛けの成果が、よく分かりま
した。

今年も「福岡市 子どもと本の日」通信に目をとおしていただきありがとうございます。来年は、
今年以上の内容になるようがんばりたいと思います。皆様、よいお年をお迎えください。

この通信ではできるだけいろいろな学校の読書活動例を紹介したいと思っています。

発 行： 福岡市教育委員会 生涯学習課

電 話： 711-4655 F A X： 733-5538

図書館員のひみつの本棚 第 140 回

祝 140 回目にご紹介するのは、どんな人でも毎日お世話になるあの場所についての本です。

『トイレのおかげ』

森枝 雄司／写真・文 はら さんぺい／絵 福音館書店 1972年 1,188円

<お勧め年齢>

乳幼児—— 低学年☆☆☆ 中学年☆☆☆ 高学年☆☆ 中学生——
高 校—— — 般——

(☆が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

福岡市の街中もクリスマスの飾りでいっぱいになってきていますが、スペインのバルセロナでは、クリスマスの飾りの中に、ウンコやオシッコをしている人の姿の人形があるそうです！その名も「カガネー」。この本の表紙の写真がそれです。キリスト教のクリスマスは実は厳かで、堅苦しいもの。いっぽうウンコをしている姿は普段の生活そのもの。この人形は現実をしっかりとみつめようとするバルセロナの人々の性格を表しているそうなのです。

この人形にびっくりした著者が、世界中のトイレのことを調べたのがこの本です。トイレのやり方も、トイレに対する考え方も、トイレで使用する道具も、驚くほど様々です。また、時代によっても変化しています。

大人でも知らないトイレに関する知識を、たくさんのカラー写真や絵を交えながらやさしく説明してくれます。ぜひ、大人も子どもも一緒に読んでみてください。

<子どもに手渡す時のポイント>

トイレは毎日使っている場所ですが、汚いとか、恥ずかしいとか思っている子どもも多いのではないのでしょうか。トイレの大切さを、体の健康面からではなく、トイレという場所の文化的、歴史的、科学的視点から伝えることで、へえーと楽しみながら、自分自身のことに重ね合わせて考えることができる 1 冊です。「カガネー」のページを紹介すれば、子どもたちが興味津々になることは間違いありません。ぜひ、1 冊ブックトークしてみてください。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

